分担研究：効果的なマススクリーニング事業の実施に関する研究

小児科専門開業医におけるウイルソン病スクリーニングに関する研究

研究要旨

我々は平成８年度の研究で，開業小児科医に感冒などの病気で受診する患児・保護者を対象とした，開業現場における任意のウイルソン病スクリーニングシステムの有用性を報告し，平成９年度から開業医を平成8年の８医院から２０医院に拡大してスクリーニングを行ってきた。本年度は984名が受診したスクリーニング結果を報告する。

研究協力者

遠藤文夫　(熊本大学医学部小児科学教室)
内野高子
(熊本市立熊本市民病院新生児医療センター)
小池恵美子　(熊本市医師会検査センター)

研究目的

平成7年10月から平成8年3月と平成8年8月から平成11年12月にわたる小児科専門開業医でのウイルソン病スクリーニングの成績を報告する。

研究対象および方法

熊本ウイルソン病診療連絡会を設立し，熊本大学小児科を含め、熊本市で開業している小児科専門医院20施設で行った。熊本市医師会検査センターを検査機関とした。検査料として保護者から800円（検査実費500円+小児科医手数料300円）を徴収した。医院を感冒などで受診する患児とその保護者を対象とした。検査の説明や対象患者の選択は各医院の小児科医に一任した。検査を希望し同意と承諾が得られた保護者からは同意書に署名してもらった。通常の生化学検査の項目である血中セルロプラスミンを検査施設にオーダーする方法でスクリーニングを行った。熊本大学小児科はコーデイネーターの立場から，ＰＲ用のポスターやチラシの作成や同意書と簡単な説明文書の作成などの事務的な準備と，検査センターと開業医との連絡業務，ならびにスクリーニング陽性者がでた場合の２次検査の機関としての働きをした。スクリーニングのカットオフ値は15 mg/dLとした。

研究結果

計984名がスクリーニングを受けた。しかし，月を追うごとに減少する傾向がみられた。

年齢別では0から6才までが全スクリーニング受診者の87%で，そのうち1～3才が51%を占めた。また，スクリーニング受診者のセルロプラスミン濃度の平均値は35.4mg/dLだった。発熱等の検査のついでにスクリーニングを受ける場合が多いため，セルロプラスミンはやや高めに出る傾向がみられた。年齢別にみると0～1才代でセルロプラスミン濃度が低くなる傾向が認められた。

カットオフ値15mg/dLは全体の0.8%未満に相当したが，一次スクリーニング陽性者はでていない。しかし、スクリーニングを行っている開業医の患者で5歳の男児が，軽度肝機能障害のためセルロプラスミン濃度を測定したところ，1.6mg/dLと低く，精査を行い，ウィルソン病と診断された。

考察

月を追うごとに受診者数が減少する理由として，1) ひとつの開業医を受診する層は固定されるきらいがあり，すでにスクリーニングを済ませてしまった層がかなりいたと推測される，2) 忙しい開業の合間に積極的にスクリーニングを勧める時間はないので，どうしても保護者からの希望がある場合に限られる傾向にあるが，その際，ウイルソン病の保護者への知名度の低さがネックになる，3) 800円の検査料金，などが考えられる。スクリーニング対象者が順調に拡大されれば，必ず患者は同定できると考えられるが，そのためには新規の開業医の参加が必要である。しかし，規模拡大のためには人件費や試薬代など経済的な制約が大きいのが現状である。

結論

計984名のスクリーニング結果を報告した。

協力医院（アイウエオ順）
池沢医院・浦本医院・江上小児科医院・えとう小児科クリニック・管医院・木藤小児科・北野小児科内科医院・くどう小児科・桑原内科小児科医院・島添小児科医院・末藤小児科医院・杉野クリニック・瀬口医院・寺本医院・二宮小児科医院・はらぐちこどもクリニック・藤川医院・松本医院・みやざきこどもクリニック・渡辺医院